１．プログラムの問題点・課題点

- 調書上は年度を追うごとに事業を拡大する方針であるが、予算減額の状況下でいかに事業の活性化を図り、東アジア大学院構想の土壌をつくるか、また、補助金期間終了後も事業に継続性を持たせるための学内外での基盤づくりが大きな課題である。
- セメスター交換留学の促進、特に活発な学生派遣を目標に取り組んできたが、弊害のひとつとして就職活動開始時期と帰国のタイミングの相違という点があり、制度の整備と同時に、主体である学生当人の不安を払拭するための対策が必要である。
- 当研究科では奨学金受給の割合が高く、その場合、留学プログラムへの参加が認められないケースが多い。
- 日本人学生の英語力が交換留学の基準値に満たないケースが多々あり、モビリティーの促進以前の問題として検討する必要がある。
- 協定校ごとに大学内部での事業の扱いや大学教職員の職掌が異なるため、推進スピードや事業に対する方針に統一感を持つことが難しい場合がある。

２．グッドプラクティスの事例